金製、石英製又は耐熱ガラス製の蒸発皿に採り、水浴上で蒸発乾固する。次いで、５か所に直径１㎜の穴を空けたアルミニウム箔で蒸発皿に蓋をして、105℃で２時間乾燥した後、デシケーター中で放冷する。冷後、アルミニウム箔の蓋を取り除いて秤量して蒸発皿の前後の重量差ａ（㎎）を求め、次式により総溶出物の量を求める。冷後、アルミニウム箔の蓋を取り除いて秤量して蒸発皿の前後の重量差ａ（㎎）を求め、次式により総溶出物の量を求める。

$$\text{総溶出物（mg／cm}^2\text{）} = \frac{\text{（a－b）}\times 2\ \text{（mL／cm}^2\text{）}}{\text{試験溶液の採取量（mL）}}$$

ただし、ｂ：試験溶液と同量の食品擬似溶媒について得た空試験値（㎎）

（削る）

８　添加剤試験法

アミン類（トリエチルアミン及びトリブチルアミンに限る。）

⑴　検量線の作成

トリエチルアミン及びトリブチルアミンそれぞれ約10㎎を精密に量り、100mLのメスフラスコに採り、ジクロロメタンを加えて100mLとする。この溶液４mLを100mLのメスフラスコに採り、ジクロロメタンを加えて100mLとする。この溶液１mL、２mL、３mL、４mL及び５mLを採り、それぞれ20mLのメスフラスコに入れ、ジクロロメタンを加えて20mLとし、これらを標準溶液とする（0.2μg／mL、0.4μg／mL、0.6μg／mL、0.8μg／mL及び1.0μg／mL）。標準溶液をそれぞれ１μLずつ用いて次の操作条件でガスクロマトグラフィーを行い、得られたガスクロマトグラムからトリエチルアミン及びトリブチルアミンの各ピーク高さ又はピーク面積を求め、それぞれの検量線を作成する。

操作条件

カラム　内径0.32㎜、長さ30ｍのケイ酸ガラスの細管に、ジメチルポリシロキサンを５μmの厚さでコーティングしたものを用いる。

カラム温度　150℃で５分間保持し、その後毎分20℃で昇温し、250℃に到達後５分間保持する。

試料溶液注入口温度　200℃

検出器　アルカリ熱イオン化検出器又は高感度窒素・リン検出器を用いる。250℃付近で操作する。空気量及び水素量は検出感度が最高となるように調節する。

注入方式　スプリット（15：１）

キャリヤーガス　ヘリウムを用いる。トリエチルアミンが３～４分で流出する流速に調節する。

⑵　試験

試験溶液１μLを用いて⑴　検量線の作成の場合と同様の操作条件によりガスクロマトグラフィーを行い、得られたガスクロマトグラムから各ピーク高さ又はピーク面積を求める。それぞれの検量線を用いて試験溶液中のトリエチルアミン及びトリブチルアミンの濃度を求め、次式によりそれぞれの材質中の含量を求める。

材質中の含量（μg／ｇ）＝試験溶液濃度（μg／mL）×２（mL）／試料の重量（ｇ）